

ほとけの 混和会だより

令和六年八月

東光院
東大寺

第174号

人類のおごりの
果ては



祇園精舎の鐘の聲、
諸行無常の響きあり。
娑羅双樹の花の色、
盛者必衰の理をあら
はす。
奢れる人も久しから
ず、ただ春の夜の夢の
ごとし。猛き者もつひ
にはほろびぬ、ひとへに
風の前の塵に同じ。

近年、夏の暑さが大変厳しく成つて参りました。熱中症で亡くなるニュースもよく耳にしております。

ほんの数十年前、外気温度が三十度に成つたりすると、大きな話題と成つておりましたが、最近は三十五度は当たり前、時には地域によって四十度と言うことも報じられております。

年々厳しさを増す地球の温暖化は、大自然の営みから大きく外れて生きる。私達人類のおごりと欲望が大きな要因かと思えます。

そして世界の人口は、現在約81億人、1年で約7000万人以上増え続け、地球が自然に包容出来る人員をはるかに超えてしまいました。地球の温暖化、そして世界人口の増加に伴う食料危機私達はこの地球に何時まで住み続ける事が出来るのだろうか、

とても心配です。

上記の平家物語の祇園とはインドの地名で、精舎とはお釈迦様が説法しておられた建物「寺」の事です。

お釈迦様は【諸行無常】「物事は全て移り変わって行く、永遠なる者は何一つ存在しません」と法を説いておられたのです。

その説法を諸行無常の響きありと歌つておられます。そして沙羅双樹とは、別名夏椿とかシャヤラと言われ六月頃に白い花を咲かせます。

実はお釈迦様が入滅された時、かつて白く咲き誇ったシャヤラの木は釈尊の死を悲しんで枯れてしまったと伝えられております。

そして釈尊の死期が近いと知ったお弟子さんたちは、「お釈迦様、私達は今後、だれをよりどころとし、何を指針として歩んだら良いのでしょうか？」と尋ねます。すると釈尊は「移りゆく私の体をよりどころとしては成りません。自らをよりどころ

とし、『法』大自然の真理をよりどころとしなさい。」

『自燈明法燈明』と説いて下さいました。

私達は大自然の営みの中で鳥や魚、牛や豚など様々な命、そして自然からの食材や恩恵を頂いて生かされております。私達は、この真理を外れて生きる事は出来ません。

お釈迦様は「大自然の営みに身を委ね、感謝の念を捧げ、おごること無く、あるがままに努め励んで行きなさい」と説いて下さったのです。

この危機的状況下に於かれて、この地球環境に於いて、「自然との共生」とも有意義なことと存じます。

又、危惧される食料危機、より多くの人々が野菜の栽培を楽しみ、分かち合う環境を築く事が出来れば、少しでも不安は解消されるものと思えます。



亮観拝



今後兼務する運びとなりました。印西市平岡東大寺様とご縁の有る皆様へも数号前より本誌をお届けしております。

自己紹介が遅くなりまして、この一面を執筆しております。東光院副住職の御園生亮澄です。よろしくお願いたします。

今回は東光院とご縁の有る皆様にも知って貰えたいと平岡の東大寺の歴史をご紹介します。

●**醫王山東大寺妙覚院**

名前から察しが付く様に、実は奈良の東大寺とご縁が有り、七六〇年、奈良の東大寺の初代住職、良弁僧正によって創建されたとされております。

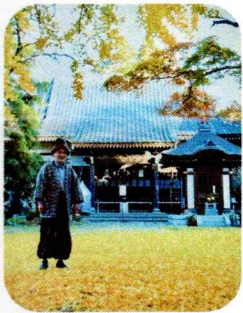
その事から開山当初は華嚴宗（仏教を学術的に追求する宗派）のお寺であったと思われ、その後平岡の東大寺は歴史の波に揉まれ一度衰退するも平安時代に重源僧都という僧によって復興され、重源は平清盛らによつて焼失した奈良の東大寺の復興に大変尽力された人物です。

奈良の東大寺復興に必

要な物資を運ぶ物流には水路が主流の時代。開祖良弁との縁と利根川を利用して平岡の東大寺も復興されたのでは推察いたします。

その為か、嘗ては多数のお堂や宿坊が存在していたと聞いた事が有り、一五九〇年。平岡の東大寺は兵乱に会い「妙覚院」「多宝院」「性善坊」の三つの建物を残し消失。一七〇八年。上野輪王寺の令旨を受け、印西市小倉の泉倉寺の末寺となり、天台宗へ改宗し、残されたお堂を含めた「醫王山東大寺妙覚院」となりました。（現本堂は平成元年に再建）

未だ残暑が残りますが、これから秋が深くなると東大寺の山門は黄色く染まって行きます。東光院にご縁の有る方も歴史有る平岡の東大寺へも是非お参りください。



さん代総の寺大 奉仕の作業草除



善因の功德を巡らす。「德行」七月二十八日(日曜日)

東大寺檀信徒総代の皆様のご奉仕による境内の大掃除が執り行われました。

日頃は、木内家親族の香取広次さんが草刈りの奉仕を下さつて居るのですが、連日の猛暑で草刈りが追いつかずにおりました。すると香取晃さんが、檀信徒総代さんに声をかけて下さり盆前の境内の大掃除を行つて下さいました。

八月十五日

東大寺檀信徒の皆様約五十名の御参拝を頂き、施餓鬼法要が執り行われました。



八月十六日 東光院にて孟蘭盆法要が執り行われました。台風七号の悪天候の中お参り頂き誠に有り難う御座いました。八月二十二日 東光院にて施餓鬼法要が執り行われました。大勢のご参拝誠に有り難う御座いました。

この施餓鬼法要の趣旨は、貪りの心にとらわれて居る人が陥る境地を餓鬼道と言ひ、餓鬼道の世界に陥った人を救うと共に私達も餓鬼道の世界に陥らないように共に徳を施す法要です。



八月十七日先代住職木内堯瑞様の埋葬供養、並びに住職婦人の一周忌法要が執り行われました事、ご報告申し上げます。

当日はご親族の皆様がご遠方より約三十名のご参拝頂き共にお経をお唱えしてご冥福をお祈り致しました。ご親族の皆様も久々の再会を喜び、尊いご縁を大切語り合つて居ました。亮観拝